

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市小学校	校長	坂田 邦彦	生徒指導主事	沖村 祐樹
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『児童主体の児童会活動』

取組における育てたい資質・能力

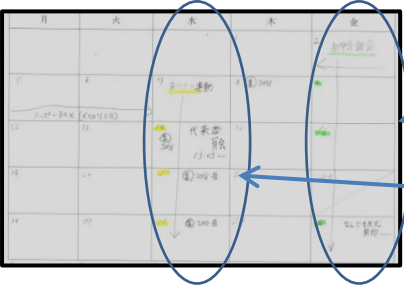
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協調性」	2	「主体性・積極性」	1	「自らの自信」	3

取組のねらい

- 学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立てて役割を分担し、協力して運営することに自主的・実践的に取り組む態度を育てる。
- より良い学校にしていくために、児童が自分達の力で学校生活の課題を話し合い、合意形成を図り実践できるようにする。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『主体性』
----------	------------------


【自伸会執行部の取組】
 ○活動計画表の作成
 →委員会活動日に、毎月の予定を書き込んだ。



【例】
 毎週金曜日は全校朝会
 ↓
 水曜日の休憩時間に集まって打ち合わせ

- ・1か月ごとの取組内容が見える化し、見通しを持って活動できるようにした。
- ・全校朝会や代表委員会がある際、「何日前までに」「どんなことをしておけばよいか」を児童主体で話し合う場を設けた。

○毎月の自伸会目標達成に向けた取組
 →自分達で決めた目標を学校全体でやり切るための取組を行った。
 例：1月の自伸会目標…「静かにそうじをしよう」



「おしずかにカード」を持って掃除時間の見回りを行った。
 ↓
執行部も声を出さない

- ・自伸会執行部が掲げた公約を果たすためには、どんな取組をすればよいのか考えた。
- ・児童主体とはいうものの、全て児童に丸投げするのではなく、常に教師が活動のねらいを確認しながら道筋を示した。

取組の成果と課題

- 自伸会執行部全員で話し合う場を多く設けたことで、合意形成を図って取組を進めることができた。
- 毎月の自伸会目標の達成率を上げることができた。 7月…79% → 1月…82%
- 教師が介入し過ぎる場面があり、教師主導で取組を進めてしまうことがあった。